



事例 29

西京極西小学校の実践例から……

子どもの学習過程を見取ってその場で改善する授業

授業改善の力ギは、45分間の授業での子どもの学習する姿にあります。西京極西小学校では、「子どもの姿を評価し、それをすぐに指導に生かす」という考えに基づき、授業中の表情や行動、発言、友達との関わり等学習の様子から、子どもの思いや考え、困り等を細かく見取り、その場で発問や働きかけ方を改善する柔軟な授業づくりをすすめています。



【図画工作科：紙の切り方のアイデアを思いつかない児童がいたら…友達の工夫を見る機会を設定】

取組の概要

中心となる願い 考え方

「自ら学び、互いに高め合えるように、子ども自らの思いを生かした学習を構築する」
育成したい資質・能力を明確にした課題分析をもとに、研究教科「図画工作科」で実践してきた「プロセスを評価する授業」「主体的活動を生かした授業」のあり方を全教科・全学年に行きわたらせる

具体的な内容

- 一人一人の子どもが課題に取り組み、「できた！わかった！」と実感できるための机間指導
 - 教師の発問に対する発言やノートの記述、活動の様子等からの、子どものつまずきや課題の丁寧な見取り（学習規律の徹底・クラスマネジメントの観点を生かした学級経営がベース）
 - 子どもの姿を評価規準に照らし合わせて見取り、具体的な手立てを考える校内研究授業
⇒子どもの理解の度合いを常に意識
- 必要に応じて「発問を言い換える」「復習内容にふれる」「板書に追記する」等の工夫

キーワードは『徹底！』

校内研究主題「豊かに感じ 仲間とつながり 高まる 図画工作科」

子どもが、育成すべき資質・能力を身に付け、つくりだす喜びを味わえるようにするために、教職員も子どもの思いを豊かに感じ取り、つながり、互いに高め合い、成長する授業をめざす

授業の例 2年算数『100cmをこえる長さ』 発問「1mさがしをしよう」
筆箱〇個分、ノートの長さ〇冊分など、身近なものをもとに
体感的に長さの感覚を学習させる

子どもとの対話の中で子どもの理解度を把握して、より深い学習へ導く

児童「ノートの長さで測れないかな…」（測ってみる）
 児童「ノート3冊分の縦の長さで、1mをちょっとはみ出た！」
 先生「そやね、ということは、ノートの縦の長さ3冊分と1mとではどっちが長い？」
 児童「ノート3冊分やわ！」
 先生「そやね、実際にノートの長さ1・2・3冊分を測ってみようか？」

Point!
まず受容！

スモール課題の提示



成果と課題

●成果

・児童の姿の変容

- ① 主体的・探究的に考える姿勢が育ってきている
→全国学力・学習状況調査の全ての学力数値が**上昇傾向**で、特に「**国語B**」がアップ
ジョイントプログラム「国語」領域ア（話すこと・聞くこと）の学力数値が**全学年で上昇傾向**
（同一集団の指数比（29年度冬→30年度夏）：現4年 +1, 現5年 +17, 現6年 +3）
- ② 将来展望が高まり、自尊感情が高まってきている
「仲間の間違いを受容できる」「自習の際も目的意識をもって集中できる」安心感のある学級へ
＜全国学力・学習状況調査 平成30年度児童質問紙回答から抽出＞
「自分にはよいところがある」 対全市指数110.6（前回比 +10.6）
「将来の夢や目標をもっている」 対全市指数110.9（前回比 +3.4）

・若手教員間の自主研修や中堅教員を中心にした校内研修など、教員の授業力向上に向けた系統的取組

●課題

・図画工作科の研究で得た評価力・指導力を全教科に波及するための教員の指導力

【解決に向けて】教科主任の示範授業など「一人一授業提案」、教員自らが研修講師となる研修企画

29年度→30年度指数
約16ポイント上昇

事例 30

横大路小学校の実践例から……

「対話」を大切に学びの深まりを目指す授業

横大路小学校では、互いに関わり合う力を育むため、全学年・全教科で、子どもたち同士の対話的活動を意図的に取り入れ、子どもたちが仲間とコミュニケーションを図りながら自らの考えや学びを深める授業づくりをすすめています。

取組の概要

中心となる願い 「将来子どもたちが社会に出た時に、他者と円滑に関わって生きていく力を育みたい」
考え方 「子どもたちに『対話』で学ばせるためには、教員は『対話』を学ばなければならない」
 ⇒目的意識を全教員が共通理解

具体的な内容 **授業のデザイン・単元構想の明確化**
 ○関連単元配列表を活用して、「対話」から得た学びをいつどのような課題につなげていくかという視点を大切にする
 ……カリキュラム・マネジメント
 ○全ての子どもが「わかる」「できる」を実感できる学習環境や学習支援（教室掲示・板書・発問等）
 ……教育のユニバーサルデザイン

1年体育（パスゲーム）

「どうやったら速くなる？」
 班で話し合い発表



6年社会

「どのインターネットサイトに必要な情報があるかな」
 2人1組で調べ学習



校内研究主題

『自ら考え、**自他と対話**しながら課題を解決することができる子どもの育成』

【目指す対話する姿】

- 1・2年（体育科を中心に）
対話のよさ、楽しさに触れ、考え方を明確化
- 3・4年（特別活動を中心に）合意形成や相互理解
- 5・6年（社会科を中心に）
既習事項、ツールを活用した深い対話と考えの再構成

4年特別活動（学級活動）

一人一人が必ず「**学級会ノート**」を作成

話し合いの流れ

自分の考え

話し合いで決めたこと

自分のふりかえり

先生から

授業の例 4年算数『分数』 発問「仮分数を帯分数になおすやり方を考えよう」
 3～4人の小グループで話し合い、クラスで意見を出し合って結論を導き出す

小グループの話し合いで…

- 児童1 「仮分数の分子を分母でわればいいんちがう？」
- 児童2 「ほんまや！ それで、分子を分母でわって、その答えになった数字を、帯分数の左側に書けばいい」
- 児童3 「あと、そのわり算のあまりは、帯分数の分子とおんなじやで。」
- 児童1 「ほんまに？ 他の帯分数もそうなってるんかなあ。あ、なってるわ！」

Point!
 教員は児童同士の学びの深め合いを待っている

先生「そうしたら、黒板を使って、みんなに説明しにきてくれる？」

$\frac{11}{4} = 2\frac{3}{4}$ は……

児童1の気づき
 $11 \div 4 = 2$ あまり3 から
 児童2の気づき
 児童3の気づき

成果と課題

●成果

- ・対話して他者の考えを知り自己の考えを深めることで自他への関心が高まり、児童の地域や社会へ関心、自己肯定感が高まった
 <全国学力・学習状況調査 平成30年度児童質問紙回答から抽出>
 「地域や社会で起こっている問題等に関心がある」 対全市指数 **150.1**（前回比 **+71.0**）
 「話し合いで自分の考えを深めたり広げたりする」 対全市指数 **105.9**（前回比 **+30.7**）
 「自分にはよいところがある」 対全市指数 **103.2**（前回比 **+41.7**）

各数値が大幅アップ！
 市全体では弱い「地域等との関わり」の内容がとて高くなっています

●課題

- ・若手教員を中心に、児童が対話を生かして学びを深めていくための授業のデザイン力向上
 【解決に向けて】月1回以上の公開授業や、その直後の校内研究だより『横研』の発行
 →教員全員で研究内容を共有し「1回きりで終わらせない、必ず日々の実践へ生かす」研究へ

事例 31

高野中学校の実践例から……

教育のユニバーサルデザイン化を通して「全ての生徒を支える学校」へ

高野中学校では、全ての生徒にとって学びやすく過ごしやすい学校をつくるため、教科にまたがって、授業づくりや教育環境、学級（学年）経営のユニバーサルデザイン（以下 UD）化を推進しています。

【目指す学校イメージ】

一人一人の『違い』を
分かり合い、
支え合える
まあるい学校

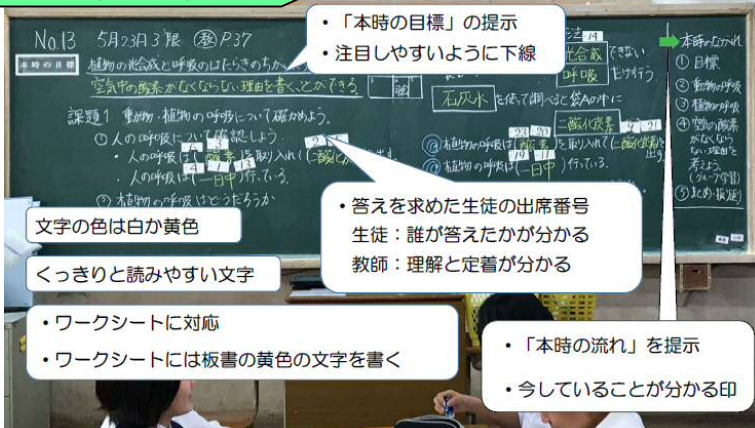
取組の概要

考え方 学び等に「困っている生徒」の困りに**気づき**、困りに**寄り添う**

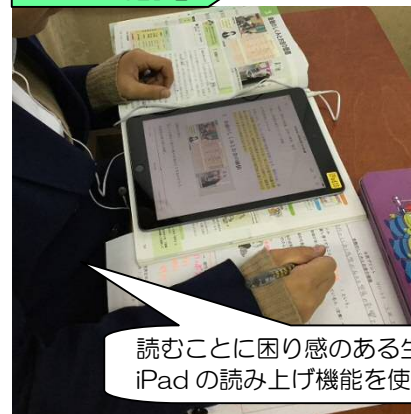
具体的な内容

- **授業づくりの UD 化**……生徒の学力向上・教員の授業力 UP をめざした**わかる授業**の構築
研修会・UD 表（教師用・生徒用）の活用・UD の視点に立った授業観察と分析、個に応じた合理的配慮を行う
- **学級（学年）経営の UD 化**……いじめ、不登校の課題克服に向けた**豊かな人間関係**の構築
授業や生徒会活動、行事等、全ての教育活動に、生徒指導の三機能「自己存在感」「自己決定の場」「共感的人間関係」を意識して取り入れる
- **教育環境の UD 化**……心の安定、過ごしやすい環境でカドのない**まあるい学校**づくり
掲示物や黒板周辺をシンプルに精選・整備するほか、ルールをわかりやすく明示する等、生徒の「過ごしにくさ」を改善し、落ち着ける雰囲気をつくる

生徒目線の授業づくり



合理的配慮



成果と課題

●成果

- ・わかる授業の一手法として、「グループ学習」等生徒が主体的に学ぶ場面を意識的に多く取り入れた結果、全学年で、生徒の学び方の意識が変容

<生徒向け「あなたのわかりやすい学び方チェックリスト」結果 4月調査→9月調査>

「他の生徒に説明することが内容の定着につながっている」1年 20%→**39%** 2年 29%→**45%**
3年 44%→**47%**

- ・「授業がおもしろくない」と感じている生徒の学習姿勢が変容

<生徒アンケートより抜粋>

「ワークシートの形が書きやすかったので、先生の説明を聞くことに集中できた」
「グループ学習で教えてもらって、計算ができるようになった」
「先生の授業がいつもよりわかりやすくなった」「自分でやる時間が増えた」

全学年で、生徒の意識が前向きに

●課題

- ・生徒の「学ぶ意欲」を高め、学力向上につなげるためのさらなる授業力向上
- ・「困り」を発信できない生徒の「困り」に気づけるような受容力向上

【解決に向けて】校内研修の充実、生徒それぞれの困りについての情報共有

児童生徒にわかりやすい授業づくりのために ~UD チェック表を活用ください~

UD チェック表には、学習に困りを抱えた生徒はもちろん、全ての生徒にわかりやすい授業づくり・学校づくりをめざして、日々の授業や学校生活の中で取り組むことのできる様々な工夫やヒントがまとめられています。（データのダウンロード等に関しては裏面をご参照ください。）

授業づくりのチェック表を活用してみましょう ～自らの授業をふりかえる手段として～

子どもたちの姿から「学び続ける教員」であるために、日常の授業を一定の基準に照らしてチェックし、子どもたちの状況を見て足りない内容があれば改善していく継続的取組が大切です。

それぞれ小学校版・中学校版のチェック表の例がイントラネット等を通じて簡単に入手できますので、自らの授業や学級のありかたを評価するひとつの手段として、活用してみてください。

(「授業場面で生徒指導の三機能を生かすためのチェックリスト」は平成31年度以降リリース)



学級や子どもたちの状況により、活用しやすいチェック表から……

◆授業・学級・学校づくりのユニバーサルデザインチェック表

(発達障害支援室(総合育成支援課内)より)

項目だてと例:

○学習環境の整備

- ・1日のクラスのスケジュールが掲示され、子どもが確認することができる

○学級運営について

- ・失敗しても許されるという温かい雰囲気を作っている
- ・授業内のルールを決めて確認している

○授業における支援

- 「集中するための工夫」
- 「指示や助言の出し方の工夫」
- 「書くときの支援」
- 「テストについて」
- 等個別の内容に分かれた各項目

チェック表の使い方、各項目の観点・解説つき!

教育ポータル内『光京都イントラ』
> 「総合育成支援課」のページ
> 「2.事業活用等」

★小学校分を現在改訂作業中!
新年度当初リリース予定です。どうぞ期待!

◆授業場面で生徒指導の三機能を生かすためのチェックリスト

(生徒指導課より)

項目の例:

- ・授業中の子どもの発言内容を、名前を添え板書する
- ・授業中の子どものつぶやき、表情、動きなど机間指導中に気づいたことから発表のチャンスを与える
- ・テストを返却するときは、一人一人に応じたコメントをしてから手渡す
- ・授業中に、一人で調べたり考えたりする時間を十分に与える

各項目の観点・解説つき!
4段階評価でチェックができます。

★小学校版・中学校版にわけて教育委員会生徒指導課から新年度にリリース予定です。
(全市生徒指導主任(主事)会での説明後)
どうぞ期待!

「総合教材ポータルサイト」の中にも授業改善のヒントが

○授業支援…教材, 素材, 学習指導案検索, “京都市スタンダード” 指導計画 (各校種・教科等別)

○研修支援…総合教育センターでの研修映像・資料, 授業映像 など

(教育ポータル内『総合教材ポータルサイト』の各ページ)

★学びのコンパスに掲載している写真等は、光京都イントラの学校指導課のページに記載しています★
光京都イントラ>●3 各課のページへ>学校指導課>●子どもたちの学力向上をめざして・学びのコンパス

～取材にご協力いただいた学校の先生方、ありがとうございました!～

ユニークな学力向上実践をされている学校は、学校指導課までお知らせください!



学びのコンパス 平成31年3月・第11号

《発行元》京都市教育委員会指導部学校指導課
小中一貫教育・学校運営企画担当(TEL.222-3801)